

1 学習の概要

キーワード

作曲

ドレミ

オートアレンジ機能

IT 活用のポイント

- ・作曲に高い関心を示していた生徒に対して、音符を使わないで作曲できるソフトウェアを活用させた。音符に関する学習に時間をかけずに作曲させることができるため、ソフトウェアの活用という「情報」のねらいに重点を置くことができる。
- ・別のソフトウェアのオートアレンジ機能を活用し、生徒の達成感をさらに高めることができた。

単元名

- ・パソコンで曲を作ろう！

単元の目標

- ・作曲のソフトウェアを使って、自分のイメージで曲を完成させる。

本時の学習

- ・2小節単位の曲作り(拍の数え方)

本時の目標

- ・8つの音(休みも含む)を一つのまとまりとして曲を作る。

本時の活用コンテンツ

- ・テキスト音楽「サクラ」

補助資料

- ・テキスト音楽「サクラ」
URL <http://oto.chu.jp/>
- ・YAMAHA「XGworks V4.0」

単元計画(20時間扱い)

階名によるメロディーの入力

- ・ソフトウェアの使い方

2小節単位の曲作り(拍の数え方)

- ・伸ばす音と休み
- ・速い音と短い休み
- ・8つの音を一つのまとまりに

8小節単位の曲作り(フレーズ作り)

- ・フレーズの終わり方を考えながら作る

構成を考えた曲作り

- ・サビを考える

イメージを考えた伴奏スタイルの選択

本時の学習(40分)

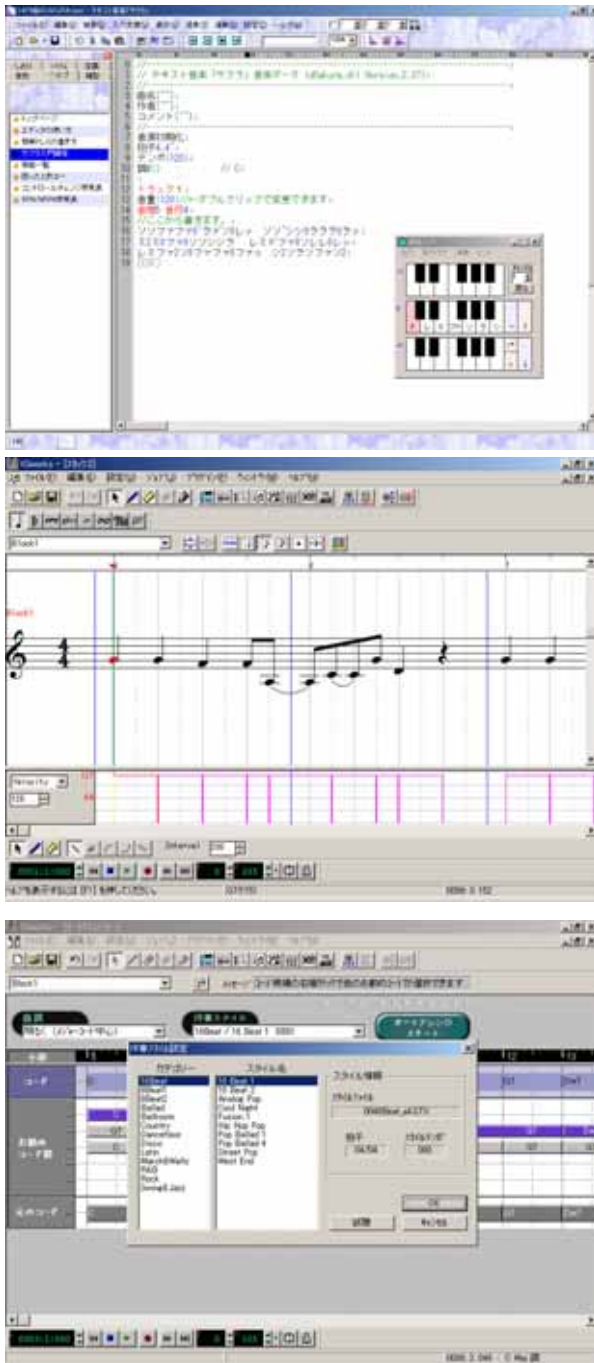
学習活動

- 1 パソコンを起動して準備をする。
- 2 前回までに入力した部分を再生して確認する。
- 3 8つの音を入力した後は、空白を入力して、まとまりが分かりやすくする。
- 4 繰り返し聞きながら、自分のイメージに合うような音を入力していく。
- 5 データを保存して、パソコンを終了させる。

指導上の留意点

- ・自分でできる操作は自分で行わせる。
- ・入力したメロディーを聞きながら、一緒に階名で歌わせる。
- ・音を伸ばす「**ー**」、休みの「**ツ**」を正しく使うように確認する。
- ・8つの音を入力した後は空白を入力させる。数え間違えている時には言葉掛けにより確認させる。
- ・必要に応じて、好ましい音の候補を示し、それらの音から選択させる。

2 実践のポイント！



情報の授業として

音符等の知識がなくても、2小節、4小節、8小節と、音のまとまりの中で適切な音を選ばせるようにすることで、何とか曲らしく仕上げさせることができた。

音楽の授業では、ソフトウェアの操作方法の習得が、情報の授業では音楽の基礎的知識の確認が、それぞれ本来の授業内容に加えて必要となることが多く、効率的ではない。

本ソフトウェアを活用することで、楽譜無しで作曲を行わせることができた。また、対象生徒の実態に合っており、情報の授業としてのねらいを明確にした授業が展開できた。

複数のソフトウェアを組み合わせる

メロディーが完成した後、MIDIデータを他の音楽ソフトで印刷、編集した。

完成したメロディーのMIDIデータを楽譜として印刷することで、作曲したのだという達成感をさらに高めることができた。また、オートアレンジ機能を活用し、伴奏を設定することで、さらに曲の完成度も高まり、成就感を味わわせることができた。

デジタルデータは汎用性の高いものが多く、ソフトウェアの特徴を理解して組み合わせることで、効果的な授業が展開できる。

3 子どもたちは？

子どもの姿

時間をかけて繰り返し聞きながら、自分の納得できる音を探して入力していた。また、伴奏スタイルの設定では、組み合わせをノートに記録しながら熱心に集中して取り組んでいた。

メロディーをすっかり覚えて歌えるようになる位に、繰り返し歌いながら作曲に取り組んだ。

子どもの声

完成したメロディーを楽譜にして印刷した時にはとても喜んでいました。楽譜を見て「歌詞をつけてもいいですか」と言われ、作詞にも取り組ませることにした。